

大工の手

daiku+note



「大工の手」について

「大工の手」は、木の家を建てた大工が誠実な素材を使いその家の家具をつくる活動です。製品には、デザイナーの著作権・意匠権・知的財産権・ノウハウが含まれており、活動趣旨に賛同し「わざわ座」に参加する座衆(工務店)が製作と販売の権利を有しています。



わざわ座 + 小泉 誠

わざわ座+小泉誠 「大工の手」プロダクトカタログ 2018年5月16日発行

photo / 阿部良寛 寺島由里佳 西川公朗 渡辺慎一

編集・発行 / 一般社団法人わざわ座 事務局 〒189-0014 東京都東村山市本町2-22-11 ☎042-395-4181(相羽建設株式会社内)

www.wazawaza.or.jp

住み手とつくり手の 顔が見える関係を

「大工の手」は、2015年に一般社団法人を立ち上げて本格的な活動を開始しました。「手仕事とモノづくりの復権」「良質な生活道具とデザインの普及」を目指した現代の民藝運動のような活動です。つくり手と使い手をつなげ、家具と共に家を大切にする気持ちを育むことを目的とする新たな「家具」のかたちです。

今は、昔のような柱梁が見える家のつくりになっていないことが多く、床・壁・天井を仕上げてしまうと構造材が隠れ、大工さんの仕事も見えない。そうすると、住み手としても「一生懸命建ててくれた」という実感がわからず、「大事に永く住んでいかなくちゃ」という気持ちも起こりづらい。そこに、家具というかたちで大工が関われば、つくり手や素材の存在をもっと身近に感じてもらえるのではないか、と。「家をつくってくれた人が、家具をつくってくれた」「このテーブルの脚は、前の家の柱だった」という物語をつないでいきたいのです。この活動をきっかけに、家やモノに愛着を持ってくれたら嬉しいし、その気持ちがあれば、大事に使われてメンテナンスもされて、長持ちするものになる。やっぱり人とモノの関わりが大事で、プロダクトとしても誠実な素材でその家を建てた人の手で家具をつくれば、環境に馴染みます。「大工の手」は、単なるモノづくりではなく、心をつなげる情緒的な活動なのです。

小泉 誠 家具デザイナー

「大工の手」のデザインを手がける家具デザイナーの小泉誠は、木工技術を習得した後、1990年 Koizumi Studio 設立。2003年にはデザインを伝える場として「こいすみ道具店」を開設。建築から箸置きまで生活に関わる全てのデザインに関わり、現在は日本全国のものづくりの現場を駆け回り地域との協働を続けている。2005年より武蔵野美術大学空間演出デザイン学科教授。2012年毎日デザイン賞受賞。2015年より一般社団法人 わざわ座 代表理事。2016年 日本クラフト展大賞。



大工の技と誠実な素材が
いくつもの地域に点在し、
日本の家づくりを元気にする。

活動趣旨に賛同する座衆・寄人により

「大工の手」が全国的な活動としてその展開を広げる中、

家具の製作点数は3年半で2,000を超える、

製品ラインナップは80を数えます。(※)

大工の技と誠実な素材により地域性を宿した家具が今、

日本の家づくりを元気にはじめています。



※2018年5月16日現在



● KM.6 / hashira-kamibako sw table size: w1690×d920×h700

2枚の板で貴材を挟んだ新しい構造のテーブル。板の間のスペースを身の回りのもの収納としたり、引き出しを納めてすっきりと使うことができる。



住宅の設計ではまずテーブルを家の中心に置き、それから住まい全体のしつらえや空間と家具のバランスが決められていく。朝、家族が顔を合わせて1日がはじまり、夜の眠る前まで時間を共有する「広場」でもあるテーブルは、まさに“人が集うための道具”と言えるだろう。

良い家には、家族が集まって語らい、食事や時間をともにできる居心地のいいテーブルが欠かせない。時にはそこで仕事や家事をこなし、いつも家族の成長や変化とともにいる家具。それは、家の中心であり、重心なのだ。“家具と建築の中間にあの大道具”としてのテーブルを丁寧にあつらえられた住まいには、住み手が心地よく過ごせる「居場所」が生まれ、時を経て家族の故郷としての家になっていく。

木の家と同じ「誠実な素材」を用いて、住み手が永く使い続けたいと思えるデザインを目指して計画される「大工の手」。つくり手の想いと手仕事を宿したテーブルを選ぶところから、家づくりを考えはじめてみよう。きっと楽しく、懐の深い家ができるはずだ。

人が集う 家の中心



● KM.53 / ita-light table B size: w1500-2000×d800-1800×h2000 / table h700

テーブルと照明はいつも一緒に。それなら、二つを一体にしてみよう……と計画されたテーブル。間仕切り壁を備えており、照明のフレームとともにダイニングに居心地の良い場を生み出してくれる家具となった。



● KM.62 / ita-oritatami table high size: w2000×d450×h1000

● KM.63 / ita-oritatami table low size: w1920×d450×h700

脚を折りたたんで収納もできるテーブル。普段は室内で使い、晴れた日に屋外に持ち出して食事やマルシェを楽しむ場に。高さの違うテーブルを組み合わせることで様々な用途に対応できる。



● KM.1 / hashira-table A size: w1500-2000×d800-900×h700

建築工事が終わると廃棄されてしまう仮筋交(かりすじかい)の材を脚に用い、プレカット時の端材や誠実な素材と共に組み上げられたテーブル。

す わ る

日々、私たちは座ることで身体を空間に落ち着かせ、さまざまな行為を行い、時間を過ごす。「座る」ための家具は人の生活の原点であり、その構造を考えることは建築的でもある。「大工の手」は、家をつくる大工が垂木や間柱という住宅の構造材や端材を用いて、職人の「腕の見せどころ」を施しながら、一脚一脚を手づくりする。生活に身近な家具を大工がつくり、それを住み手が使い込む中で、家具は家になじみ、空間に溶け込んでいく。



● KM.21 / taruki-stool size: w424×d440×h400

「座る」という機能に「重ねる」という機能を加え、置き場所に困らないスタッキングスツールが完成。家づくりに用いるJバネルや垂木など「誠実な素材」を無駄なく用いて、タフで頼もしい家具が生まれた。



● KM.48 / taruki-cushion stool size: w410×d380×h410

大工が垂木を用いて製作した脚部と、手仕事による布を座面に用いたクッションスツール。地域の職人や作家が協働することで、地域性を宿した美しい木の椅子となる。季節ごとに座面の布を着せ替えることで、暮らしを愛らしく彩ってくれる。



● KM.50 / ita-fumidai size: w330×d375×h500

昔は家が完成した時に大工さんが踏み台をつくってプレゼントするという風習があったという。人が上に立っても安定感がある、しっかりとした踏み台。高いところに手を伸ばしたい時や、子どものお手伝い、ちょっと腰を掛ける時など、いろいろなシーンで活躍してくれる。



● KM.12 / mabashira-bench A size: w1000~2000×d350×h400

● KM.11 / mabashira-stool A size: w390×d350×h400

間柱を使用したベンチとスツール。脚を台形型にすることで安定感が増し、タフで丈夫な構造となっている。



● KM.15 / mabashira-sofa bench size: w1980×d660×h735 / sh360

脚と肘置きを一体化させた四角の構造を貫がつなぎ、2m近い幅のソファベンチが実現。重さを支える構造をきちんと計画すると同時に、人の身体がふれる背もたれと座面には角度をつけて心地よく寛げるデザインとなっている。使い手の好みによりクッションと合わせるのも楽しい。

置き家具と空間

空間に家具を置くと、そこに暮らしの「場」が生まれる。家具そのものの機能に加えて、空間の中での役割をあらかじめ考え、計画することも家具デザインの大きなチカラだ。家具や明かりといったモノを動かすことで、空間はそのかたちを自在に変え、人の生活を豊かにする。



● KM.31 / ita-shelf size: w2000×d330×h1000-1060

ものを収納するだけでなく、室内空間を仕切る役割も持ったオープン型シェルフ。壁面に沿って置くのも、四角い部屋を間仕切るようにレイアウトして、本や小物を並べて自分らしさを演出するのもいい。木の風合いの変化も楽しめる。



● KM.34 / ita-hunger bench A size: w1200-1500×d486×h1600 / sh390

ハンガーラックとしての「かける」機能と、ベンチとしての「座る」機能を兼ね備えたベンチ。四角の空間は収納スペースとしても活用できる。玄関や居室など身支度をする場所に。



● KM.29 / ita-kumi low table C size: box w1430×d450×h310 table w1460h×d450×h340

箱とローテーブルという二つの形状の組み合せ方により多彩な場を生み出す家具。自由自在な重ね方、使い方を試してみたい。テーブルは箱にぴったりと重ねることもできる。



● KM.43 / kamibako-wagon size: w330×d390×h560

リビングや書斎など、場所を選ばずに活躍するキャスターウゴン。引き出しに使用している紙箱はデスクトレーとしても使うことができる。

「しまう」、「かける」、「しきる」
動詞から発想した
生活を豊かにする道具。
工夫しながら使い続けることで
暮らしを自在に変えられる家具。



● KM.49 / ita-majikiri sofa size: w1830×d1800×h1100

ソファや収納としての機能だけでなく、間仕切りとしての機能も兼ね備えた家具。

住まいの中で家族のほど良い距離感を生み出し、空間をより一層引き立ててくれる。

空間を間仕切る家具

人々の価値観やライフスタイルの変化の中で、日本の家は時代とともに変化している。多世代が一つ屋根の下に同居し、和室や座卓で「座の暮らし」をしていた時代から、家族が離れて暮らし、テーブルや椅子を使う暮らしへ。家の内部空間では木を現しにせず、シンプルに仕上げ、広がりが感じられる一体空間を好む層が増えてきた。ひとつながりの空間で家族が暮らす時、そこに壁をつくって仕切るのではなく、お互いの存在を意識できる程よい距離感と、各々が居心地よく過ごせる「間仕切り」という役割が今、家具にも求められている。

“くつろぐ、かざる、しまう”。「大工の手」で計画された置き家具のラインナップは、それを使う人の気持ちや動作をイメージしながらデザインされている。ひとつの家具でありながら、さまざまな用途に対応し、空間の中で間仕切りとしても機能するものや場を生み出すものなど、多様な家具のかたちが生まれている。空間のかたちで、家の雰囲気や日々の情景はがらりと変わる。家族の成長や暮らしの変化にあわせて空間を間仕切り、そのかたちを自在に調えることができたら、日々の暮らしはきっと豊かなものとなる。家を単なる居住空間としてではなく、大きな「暮らしの道具」として活かしきるための家具の在り方を探求すること。これも「大工の手」の目的の一つ。

建築と 一体となる家具

家をつくってくれた大工が、その手仕事と技を活かして家具や建具、住宅設備まで手がける。住み手が日々ふれることで、職人たちの誠実な仕事や想いを感じ、家具とともに家も大事にしたくなる。大工や建具屋が手がける「建築と一体となる家具」が、暮らしを楽しく、味わい深く変えていく。



大工の手キッチン

職人の手しごとを活かした住宅設備として、キッチンも新たに「大工の手」ラインナップとして加わった。

木の香りや手ざわり、素材の経年美化を愉しみ、愛着を持って使い続けることで、ますます料理の時間が楽しくなるキッチン。そんな幸せなひとときを、ぜひ、あなたの家でも。

● KM.54 / k-kitchen A size: w2550×d650×h850

「誠実な素材」であしらわれた木の風合いを感じるキッチン。対面式でバーカウンターのような使い方ができる。このキッチンを囲みながら、家族や友人と特別な時間を過ごしてみてはいかがだろうか。



● KM.55 / k-kitchen B (オプション: 折りたたみカウンター) size: w1825×d855×h850

板を横に倒すとカウンターテーブルに、縦にするとキッチンサイドの目隠しにもなる2wayキッチン。用途に合わせて使い分けができる。



● KM.54 / k-kitchen A size: w2550×d650×h850

料理好きには嬉しい、調理道具をたくさん置ける広々としたキッチン。空間に合わせて扉の素材をカスタマイズできる設計。引き出しの取手は手が掛かりやすいような工夫がなされている。



● KM.51 / ita-madobench size: w1700×d500×h1457 / sh400

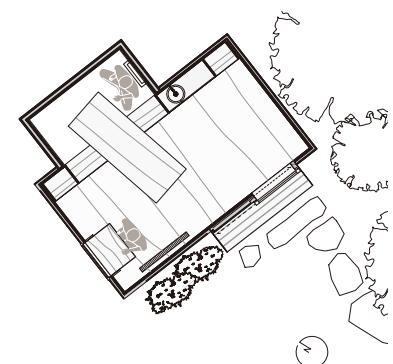
窓枠を箱として立体的に突出させ、「座る」機能を加えた家具。ちょっとした籠り感の中で、外の景色を眺められる時間はなんとも贅沢。

住み開き



小さな居場所「倉庫」

「倉庫」は駐車場に建てられるサイズの小さな居場所。一人の場所として、仕事場として、さらにお店など町にひらく「住み開き」の場所として、多様な使い方を想定。実際の車庫ほどの空間で、まるで家具の中に住むような仕掛けも盛りだくさん。子どもの頃につくった秘密基地にいるようなワクワクする気持ちになれる小さな庵。住む場所や働く場所、お店など、大きな可能性がある、小さな居場所。



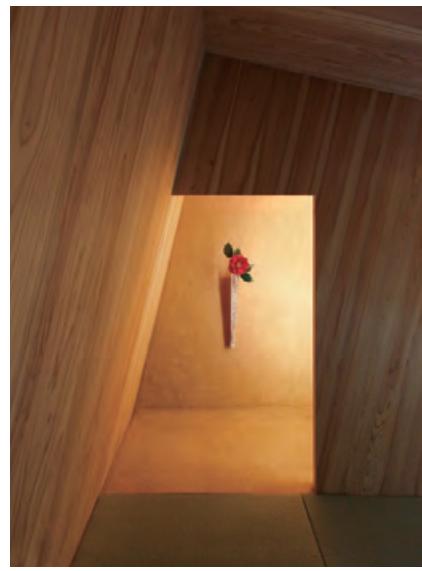
DATA (倉庫 TYPE 1)

規模：9.87 平米（2.98 坪）

構造：杉パネル工法



茶室。にじり口の扉は材木を乾燥させる際の桟木を用いた。ステンドグラスにより陽と色のうつろいを表現している。



床の間。サハラ砂漠の砂をイメージした。主人の手による四季折々の草花や掛け軸が客人を迎える。



茶室の室内。倉庫の骨格を斜めにひしやげている。日本のでありながら、伝統を飛び越える建築を追求した。

● 倉庫 TYPE 4 / 規模：7.84 平米（2.37 坪） 構造：杉パネル工法

住み開きのための 「小さな建築」

人々が個性や持ち味を生かして、暮らしを楽しみ、まちの魅力を生み出す。「小さな建築」は、住み開きのための道具。



● KM.74 / mujin-hanbaijo size: w1910×d1140×h1950

自家製野菜や手作り雑貨、本やお菓子などを並べて、軒先を小さなギャラリーに。道行く人のコミュニケーションを楽しむための道具。



展示小屋の概念を進化させたパビリオン。内部に棚を設けて本や生活道具を提案している。



イベントの場としての「展示小屋」。住宅の素材である垂木と和紙を用い、シンプルで潔い構造として生まれた。

大工と一緒に つくる家具

子どもたちが大工さんのお手伝いをしながら一緒に家具をつくる。大工技術の素晴らしさや職人のかっこよさを肌で感じ、ものづくりの楽しさを知ることができる。日々の生活の中で自分がつくった家具に触れることで、愛着を持ってモノを大切にする心が育まれ、永く大切に使い続けてもらえる道具になる。



● KM.60 / taruki-kids chair B
size: w300×d300×h375 / sh250

「子ども椅子」は、ワークショップ用の製品として開発されたはじめての「大工の手」。小学校入学前の子どもにちょうどいい寸法。



■ KM.70 / taruki-gakudo chair B (試作)
size: w390×d360×h740 / sh475
「学童椅子」は、小学校に入学する頃から使いはじめ、身体の成長にあわせて脚をカットして使い続けられるよう計画されている。

子どもたちのための2つの椅子

「木」の魅力や「手仕事」の楽しさを子どもたちに体験してほしい。そんな想いから、2016年から大工さんと一緒につくる家具ワークショップが座衆によって開催されている。製作される製品は2種類。1つは、保育園に通うくらいの子どもたちにちょうどいい「子ども椅子」。もう1つは、子どもの成長に合わせて脚の長さをカットすることで使い続けられる「学童椅子」。どちらも、木の家に用いられる誠実な素材を活用した「大工の手」。

製品ラインナップ

大工とデザイナー、工務店が手仕事で協働する「大工の手」。
製品ラインナップからその一部をご紹介。



● こいづみの手（木の取手 S・M・L）
size: L205-450×d45×h25



● KM.3 / hashira-table 丸中
size: φ900-1000×h350-700



● KM.24 / taruki-kids chair A
size: w300×d287×h424 / sh238



● こいづみの手 / washimaru
size: φ125×h110



● KM.22 / taruki-chair A
size: w475×d468×h770 / sh410



● KM.30 / ita-side table
size: w400×d400×h450-700



● KM.27 / ita-kumi low table A
size: high w1185×d450×h340
low w1120×d450×h240



● KM.45 / ita-inugoya 羽目板
size: w658×d800×h570



● KM.65 / mabashira-magazine stand A5 size: w510×d450×約 h1580 / 6段
● KM.67 / mabashira-magazine stand A4 size: w510×d450×約 h1580 / 4段
A5・A4サイズの資料や本を収納できるマガジンラック。衝立のように間仕切りとしての機能も併せもつ。家や店舗、学校、医院など様々な場、イベント時に活躍。



● KM.20 / mabashira-coat stand
size: w600-1200×d450×約 h1496
モダンでシンプルなデザインのコートスタンド。L字型に組まれた構造は空間を遮らず、すっきりと衣服をしつらえてくれる。



● KM.47 / hashira-stand light
size: w600×d563×h1500
スタンダード。一筆書き構造の脚はテーブルやソファーの下に収まり「光」を身近に寄せることができ。コード収納も容易。